

市長と語る～まちづくり懇談会～ 三郷

日時：令和元年 8 月 2 日（金）午後 7 時～8 時 30 分

場所：三郷コミュニティセンター

地域自治区会長あいさつ

■司会 初めに、主催者の地域自治区会長からあいさつをする。

■会長 皆様、御参加ありがとうございます。早いもので三郷町まちづくり委員会、自治連合会、各種団体の代表者で、町民のアンケートを参考にしながら活発なグループワークを重ねて策定した、三郷の地域計画は、もう見直しの時期が来た。本当に早い。恵那市の中でも、合併を機にまちづくり委員会を解散した地域がたくさんある。三郷町はそのまま継続し、地域計画を自治連合会とともに主になって作っていただいたことが、ありがたかったと思っている。町民と一体となって計画を進めていただいている。

地域計画の中には、まちづくり委員会がやること、自治連合会がやること、みさと愛の会がやること、それぞれの代表者に来ていただいて作ったので、それぞれの代表の団体が書いてある。これだけ詳しく書いてあると、これをやらないといけないという思いが一層募ってくると思う。

三郷町は、少子高齢化が進み、人口減少を初め、今日 4 つの課題について提案していただくと、それだけではなくまだまだ課題が山積している。地域計画を進めながら少しずつ課題をクリアしながら、いつまでも安心して住み続けられるまちづくりをしていきたいと思っている。

今日の懇談会は市長たちと直接話せるめったにない機会だ。忌憚のない御意見をいただくことを期待する。

市議会議員あいさつ

■市議 大勢お集まりいただきありがとうございます。

今日はいろいろな行事がある。保育園で夏祭りもやっている。明日香苑でも夏祭りをやっている。いっぱい車だった。明日香苑も 20 年を迎える。三郷町にはなくてはならない施設になったと実感する。親がデイサービスに通っているの、その面でもありがたいと思う。恵那市の指定管理の施設だ。保育園も私の孫が通っている。今日は 4 時頃雨がザッと降った。佐々良木ではそれほどでもなかったが、野井、市街地の方ではすごく降ったという。孫も心配していたが喜んでとんでいった。こういうことがなければならぬと思う。

20 周年で、もう一つ話したいことがある。これもなくてはならない施設で、道の駅。来

年4月で20周年になる。今年は駐車場の再整備をする。いつの昼時行っても車が止められない。何とかあのスペースの中でもう少し車が止められる状況にしたい。9月、10月には工事に着工し、来年3月までには駐車場を直したい。来年度は中のリニューアルをしたい。年間62、3万人が訪れる施設だ。何とか私たちも利用しないといけない。来たお客さんが利用しないといけない。これもまちづくりの観光の一つだと思う。

今日は家にも昼間38度ぐらいだった。ここ2、3年、風呂に入るような感じだった。昼飯を食べた後、小学校1年生の子が寿老の滝に行きたいと行った。2人で上がっていったら、家族連れでいっぱいだった。誰がどういうふうにといい宣伝はしていないが、その中で、大井町の人が1人いた。女性で、「ここへ孫を連れてきてても安気に遊ばせておける。涼しいし目が届く」と言っていた。低学年の子や幼稚園の子も安気にほかっておけるのが滝の下側だ。上は15分もいたら寒くておれなかった。いい所だ。これも何とか皆さんで宣伝をして活性化の一つにしていきたい。

定住促進は、まちづくりの中で、三郷に60数戸の空き家がある。委員会の皆さんは一生懸命やっているが、仏壇があつたりしてなかなかさばけない。苦勞して、お寺まで行って、仏壇はどうしたらいいかということも、委員会の人が勉強をされて、持ち主にそういう話もされている。なかなか回っていかない。今後は民間の手を借りても、土地を確保する方というように、会長とも話をしている。市の方でも住宅開発に関する事業を始める。3反以上の土地をまとめて開発、これは民間の恵那市の業者が出ると負担がすごくある。そういうのを、皆さんでこういう土地があるということを探していただいて、それを提供して民間の開発業者にやっていただく。そうして何とか住宅地を作りたいというのが今の思いだ。三郷町で1区画ぐらいは何とかならないかと思って、会長とも話をしている。皆さんのお力添えをいただきたい。

もう一つ。西中学校の校長先生が来てみえる。工業団地が今できかけている。西中学校の通学路も三郷町で絶対考えてもらわないといけない。浜松榎ヶ根線の歩道はしっかり確保した道路計画をしてほしい。

三郷町にまだまだやらないといけないこと、お願いしないといけないことがある。三郷町のまちづくりについてよく聴いていただいて、これからよろしくお願いします。

「はたらく」「たべる」「くらす」「まなぶ」の主要事業について

■市長 三郷町について。人口は平成17年、2,742人、815世帯。直近では2,406名、859世帯。生まれた子ども、平成17年は14人生まれ、今23人いる。移住して来た人も含めて。平成30年は13人生まれ、今12人いる。

事業。学童保育所が来年3月移転で学校に入る。ユニオン機工が三郷町内に来て10年ぐらいになる。昨年100万円の寄付をしていただいた。これを小学校、中学校に50万ずつ活

用していただいている。小学校でボルタリングの壁を購入した。その報告会とユニオン社長の写真だ。噂では今年も 50 万円ぐらい寄付したいということだ。

西工業団地。三郷町では北山川の河川改修が昨年から進んでいる。それと西工業団地の造成とセットで着実に進んでいる。

国道 418 号の佐々良木校区で凸角のところを外に広げている。総事業費は 1 億 7 千万で、今ちょうど中間年度。これから後半を進める。県道 66 号線の多治見恵那線の一番西側も歩道の設置に向けて着実に進んでいる。今年度は 3 千万程度の予算。道の駅らっせい三郷も今年度、来年度の 2 カ年で変わってくる。駐車場は今の 33 台は 58 台になると聞いている。バイク駐車場がなかったが 18 台分を確保するということだ。県では、まだ確定ではないが、トイレも災害に強いトイレだと聞いている。本体の改修も来年予定している。寿老の滝には多くの人に夏にはお越しいただいている。殿畑のつつじ山も地元の人が大変手を入れて、すばらしいところを新たに生み出してきている。

意見交換

■司会 初めに、三郷町の課題だと思われる 4 つについて提案する。

①旧佐々良木保育園の利活用

■司会 地域の拠点整備事業として、旧佐々良木保育園利活用について。旧佐々良木保育園設立準備委員会委員長。

■旧佐々良木保育園設立準備委員会委員長 旧佐々良木保育園の跡地は、平成 24 年から検討に入り、平成 28 年に地元でアンケート調査をして、その中で活用していくということになり、それから検討委員会を作り、23 回の検討を重ねてきた。昨年度、ここの使用についてということで、企業主導型の保育園事業をということであったが、補助金が却下されて止まってしまった。今年はその中で、保育園事業と高齢者の安心サポートシステム事業の 2 つを考えている。昨年法人化をしたみさと愛の会に承認をいただいて、地域自治体の運営委員会にかけて市に具申した。12 月の市議会に上程したい。非常にタイトなスケジュールなので、教育委員会などの関係機関の中でスムーズに進ませてもらえるように御配慮をお願いしたい。

この施設は、三郷町もだんだん人が減る中で、やはり定住人口を守って、関係人口、交流人口、移動人口などを増やしていきたい。その中ではこの跡地の活用は大きな意味があると思う。こういった道具を使って自然豊かな三郷町、人情味ある三郷町の道具、大切なものとして進めていきたいと思っている。市役所、市長にはぜひ大きな支援をお願いしたい。

②高齢者の生活支援

■司会 高齢者暮らしの手伝い事業、高齢者の生活支援について。一般社団法人みさと愛の会事務局長。

■みさと愛の会事務局長 みさと愛の会では 3 本柱で活動している。高齢者の日常生活支援ということで、お手伝い事業。事務所を使って学童保育事業。高齢者対象のいきいき教室事業。今日は高齢者福祉の観点から、お手伝い事業について話す。

お手伝い事業は 70 歳以上の高齢世帯、または独居の世帯を対象に、自宅周りの草刈り、枝切り、町内の送迎、ごみ出し、電球の交換、簡単な修理などの作業の依頼を受けて実施している。その中で、作業の依頼が多いのは主に草刈りと庭木のせん定、町内の送迎などの 3 つ。少ないのは、年賀状の宛名書き、買い物代行、家具の移動など。依頼件数が 2 年目、3 年目と順調に増えてきていたが、最近は減少傾向にあり、心配している。原因として考えられるのは、今まで依頼していた人が亡くなったり病院に入院、施設へ入所する人が増えていることだと思う。ほかにも高齢世帯が出てくるので新たに依頼してくれる人も出ているが、依頼者の絶対数としては大きな変化がなく、出ていった分だけ減少している。

今後の見込みは、昨年 6 月に法人化でき、それ以前は野井を中心に活動していたが、現在は佐々良木、椋実を含めて町内全域で活動できることになったので、今後依頼件数も増えてくると期待している。今年度は、佐々良木での依頼もあまりないし、出ていく作業者の準備もうまく進んでいない。何とか総会等で考えて皆さんの知恵をお借りしたいと思っている。

町内全域で活動を進めるに当たり、旧佐々良木保育園の譲渡を再度お願いに行き、活動の拠点として、町内の活性化に寄与したいと思っている。譲渡のお願いは、地域自治会の運営委員会等から再度お願いに上がることになると思うのでその節はぜひお願いします。

活動経費について。お手伝い事業には、草刈り、せん定の道具も必要で、事務所として旧野井農協の跡地を利用しており、その事務所の維持にも経費がかかる。送迎は個人の自動車で行っているが、今だと個人対応になってしまうので、みさと愛の会の所有で車を購入して送迎できるようにし、多少なりとも事故などのことについて、みさと愛の会として何とか対応できるようにしたいと思っている。これらの経費は、野井、佐々良木、椋実の 3 区の区会からはもちろん、森林組合や農業団体、その他各種団体からも助成をいただいている。会費としては町民から 1 口千円の協力をいただいている。そのほかに、自分たちで資金を調達しようと、資源回収、アルミ缶回収、フリーマーケット、焼き芋機を買って焼き芋を販売することによって利益を上げて資金を得ている。その資金で何とか活動の継続はできているが、送迎用の車を買うほどの余裕はない。いろいろな大きな事業団体なども、寄付事業なども検討したりしているが、それがすぐ適用できるということでもないので、市としてまちづくりに努力している団体に物心両面で支援いただきたい。

③空き家・移住促進

■司会 人口減少対策について。空き家対策、移住促進について。地域協議会の諮問委員会として発足した定住促進委員会副委員長から。

■定住促進委員会副委員長 3点ほど話す。

①恵那市の住宅団地開発支援事業奨励金を活用した宅地供給の推進。

今年6月、恵那市議会で人口減少対策の一環として良質な住宅地を創出し、定住人口の増加と活力あるまちづくりを進めるため、民間の事業者が実施した3千㎡以上の住宅用地開発事業の、道路や水道等の公共設備にかかった費用について、奨励金を交付されるというもの。これはこれまでなかった、恵那市としてはかなり冒険的な、積極的な施策だと思うし、これによって、新しい住宅団地が生まれ、人口もそれなりに増えることを期待する。

今回三郷町もその対象地域に含まれたので、そうした情報をいただき、市の担当部署にすでに来ていただいて、定住促進委員会の中で説明を受けた。それをもって、三郷町にはどんなどこができるのかを探そうということで検討に入っている。参考までだが、三郷町の土地の取引をネットで調べると、三郷町では坪当たり1万5千円。それが武並町では坪6万円。大井町、長島町で10万とか20万。三郷町は造成するのも厳しいのかなという計算ができてしまう。

三郷地域は、空き家バンクの担当に聞くと、名古屋にも通勤が可能で景観もよく文化的なものもあり住みやすいところで人気があるという。そういった観点からも、恵那市は、都会と同じような住宅団地も必要だが、三郷のような地域でも人が住める場所を提供する、それは値段が安いからというだけではないだろうと思うが、実際業者としては取り組みが非常に苦しい現実がある。この辺のことで、10年間この制度の運用があるので、その間に三郷町でも使えるような工夫をしていただけたらありがたい。

②昨年、空き家バンクでの紹介のことで私は話をした。空き家バンクに登録できる前、準備段階で載せてもらえないかという話をしたが、なかなか、空き家バンク自体が補助制度の一環なので動くことができないと思っている。そういったこともあるので、三郷町は独自に空き家調査をしている。中には使えないものもあるが、60件を超えるものがある。そういった空き家をいかに人の目に触れさせて興味を持っていただくか。併せて、三郷町は長い。恵那に近い大沢から椋実までが距離があるので、地形も変われば環境も変わる。それを皆さんに見てもらって、そういった場所を見た上で、こういったところに住みたいという話を聞き出したい。それを聞くことによって、空き家を持っている人が、この家でも売れるんだ、売ってもいいかなと思ってくれる。住みたい人は、ここにこんな空き家があるということを知ることによって、お互いに関係を持つ。関係人口の話があったがちょっと意味が違うが、人間としてのつながりを少しずつ築く、そのきっかけを作りたいと思

っている。それを今年の秋ぐらいに何とか実施したいという計画をしている。

③恵那くらしビジネスサポートセンターのことで。その職員で空き家バンク担当が昨年2名みえ、1名が3年の期間を超えたので退任し地域に入っている。私としては、空き家バンクがあり、恵那市には空き家を紹介するはっきりした拠点があるのでそこが大事な施設だと思っている。そこでの職員が3年でやっと覚えて動けるようになったという時期での退任になる。せつかく地域のために動き地域のことが分かり相談に来る人の気持ちも分かる人を育てるのは難しいので、そういう人をさらに活用するような検討をしてほしい。

これが空き家に関する私の提言だ。

④地域の活性化

■司会 地域の活力づくりについて。まちづくり委員会事務局長。

■まちづくり委員会事務局長 三郷町のまちづくり委員会は4つの部会で構成されている。うち1つは、人口減少対策部会、空き家に対するところや、新しく家を建てたいというところもあるが、所詮素人の集団で、自分たちの住んでいる周りの一部しか知らないので、集まって話し合いをすると、部会の人たちは三郷町にこれだけの空き家があったかという驚きがすごかった。それをどうするかをいろいろ聞くと、部会だけで動いては解決できないことばかりなので、町民の協力も必要だし市の援助も必要だと思う。

婚活事業。三郷町には独身の人がかかりみえる。今の独身の人たちは結婚に対して焦らない。結婚を求めていくことが少ない。おせっかい事業として婚活をやっている。何回かやっているが成功に至らない。企画としては、ブルーベリー農園の環境のいいところや、大滝や、自然豊かなロケーションでロマンチックな設定をするが、素人が企画するので、テレビのようなことはできない。まして男と女のロマンをできるなんてことは素人では難しい。でも何とか成功事例を作りたいということで、今年になってから婚活コーチングということで、外部からふさわしい人を呼んで勉強会を開いて頑張っている。

2つ目の部会は、健康福祉生活環境部会。ノルディックウォーキングの普及を目指して、ウォーキングコースを三郷町内に5つ設定して看板を立てたりしている。このコースでウォーキング大会も毎年開催しているが、役員とともにもコースを回って看板を立てていくが、地元の人が地元のコースを歩いて、こんなところがあったのかと。この間もやったが、すごく良かった、三郷はこんないいところか、と改めて見直したという人が結構いた。もっと多くの町民に歩いてほしい。三郷町の文化祭では、健康指導コーナーを診療所に設け、そこで個人的な健康管理の指導をしている。

3つ目は、都市交流産業振興部会。三郷町が一体となり活力ある地域にするために、地域資源を生かした観光交流事業というので、軽トラ市を毎年2回開催し、年々認知されてきて、どんどん増えて、今年6月に春の部を開催した。春は野菜が少ないので、来る人、出

店する人が少ないが、過去最高の 1,200 名がみえて、大盛況のうち終わった。これからの発展も見えてきたと思う。

地域資源発掘事業として、フォトコンテストを毎年やっている。三郷町のいいところをデータとして残していく活動。三郷町民以外の 4 割近い人が三郷町へ足を運んで写真に収めてそれを展示する。ここの廊下にも展示してある。

庄内川水系上下流域交流事業。三郷町は庄内川・土岐川の源流で、源流と末端の庄内川の住民たちとの交流も盛んに行っている。秋には子どもたちもこちらへ来て、川遊び、川の生物の勉強をする。明後日の日曜日は三郷町の野井川で子どもたちと一緒に遊ぶ会が開かれる。都会からも来て遊んですごく充実した目をして帰ってもらっている。

4 つ目、教育文化市民参画部会。郷土の文化伝承事業として、機織り講座を、今年も全 10 回の講座を開いている。毎年継続して参加している人がいて、講師にもなれるような人が育ってきており、成果が出ている。子どもを対象にした講座も開催している。

史跡文化財整備事業として、佐々良木古墳群の草刈りや、ここの上の方に茅葺きの家があるが、そこの保存をするために周りの草刈りをしている。

以上、4 つの活動を報告した。私個人として、三郷町のまちづくり委員会に参加するようになって、先輩方といろいろ触れ合う機会があった。その中で、三郷町の先輩方、こういうところに参加しているのは優しい人ばかりで、協力的な人ばかりおられる。そういうところで部会が成り立っている。ほかの町ではどのような活動をされているか知らないが、三郷町の各部会の人たちはかなり頑張っていることは間違いない。

これからも恵那市の支援を一層よろしくお願ひしたい。

■司会 子どもたちの機織り体験は今日の昼間やっていた。

■旧佐々良木保育園設立準備委員会委員長 旧佐々良木保育園跡地の譲渡について、経過の中で改修費を 1 千万認めていただいた。非常に利活用がしやすくなった。市長、市議、ありがとうございました。

■司会 市長から御意見などをお願いします。

■市長 旧佐々良木保育園設立準備委員会委員長さんから、佐々良木保育園の話。結果的には昨年非常に残念な形になったが、それにめげずに再びチャレンジされるということなので、私どもでできることは一生懸命支援する。

みさと愛の会事務局長さんから、佐々良木保育園の活用、お年寄りの支援の方で活用したいということ。私も支援申し上げる。

活動の件で、経費も含めて支援をとということ。この件は情報だけ申し上げる。市議も行かれた参議院議員の選挙のときに、岐阜に行って応援してきたが、そのとき前の幹事長がいらして、松江の選挙区出身で、人口減少がはなはだしいと。今まで総務省はふるさと活

性化協力隊のようなのを作ってやってきたが、なかなか実質的な効果が上がっていない中でもうちょっと真剣にやらないといけないということで、ふるさと活性化のための事業組合とか事業共同体みたいな団体を作りたいということがこの秋の臨時国会で提案されるそうだ。それを活用すると、協力隊のような人がその組織に入って、そこでいろいろまちで困っていることを請け負って、交通や買い物、生活支援、そういったものを請負ながら赤字の部分は国が面倒をみるという制度だそうだ。詳細はまだ出ていないが、そんなことも頭の隅に置いて、ベストな事業体、もしくは事業スキームみたいなものを考えていけたらと思っている。

定住促進委員会副委員長さんから 3 点ほどあった。宅地造成のための助成を、三郷では売り出し価格が難しいかもという話があった。定住促進委員会副委員長さんは私たちよりはるかにプロなので、その意味でいろいろなアドバイスをしていただきたい。

空き家バンクは、少し制度的にはサポートの度合いを深めるので、それも活用いただき、人の動きを活性化ということもあった。そのあたりは恵那くらしビジネスサポートサポートセンターも含めてできるだけだけの応援を申し上げる。気軽に相談してほしい。アドバイスをいただきたい。サポートセンターをさらに活性化、活用したらどうだという提案もいただいた。これは持ち帰り、できる限りのことを考えようと思っている。今 1 人辞めたというのを聞いている。残った 1 人に大変な負荷がかかっていると聞いている。手を入れられるところは入れていきたい。

事務局長からの御意見。いろいろな活動をしていただきありがとうございます。ほかの地域に比べても、三郷町の皆さんはまともにも大変よく、いろいろな分野に取り組みされていると思う。多岐にわたってやっという印象を持っている。皆さんの顔もいきいきしている。まちとしては元気な印象がある。引き続きの活動、もしくは、私どもでできることがあれば相談いただければ応援するし、私どもとしては頑張っていきたい。

■司会 意見交換に入る。1 人 1 件でお願いしたい。自由意見でいい。

■市民 1 有害駆除について。猟友会の者です。らっせいみさと直売所の会長もしている。小学校の食育教育で学校の畑をしている。そういう関係で、有害駆除に従事している。イノシシには助成金が出るが、アライグマとヌートリアの被害が結構ある。ここ 5 年間で約 100 頭アライグマを処理した。市に報告書を出している。それはすべてボランティアだ。餌代もかかるしガソリン代もかかる。農政課に大分聞いたが、予算がないからといい返事をもたえなかった。考えてほしい。

■副市長 イノシシの有害駆除の制度を作ったのは私が経済部長の時代だ。そのとき、最初の値段が安すぎるというお叱りもあって途中で値段を上げたりした。特に懇談会に行くとイノシシの有害駆除をしっかりとやれということばかりの時代があった。そのとき、電気

牧柵を市の補助で始めたという時代もあった。そのとき、アライグマのことは全然頭になかった。イノシシ、カラス、サルは有害駆除の対象にしたが。今回話を聞いたので、前向きに検討する。確かにアライグマの被害はたくさんあると思う。

■司会 アライグマ、ハクビシンは、私も年に何頭も見ると。私からもお願いしたい。

■市民2 野井に住んでいる。この数年来、三郷町にソーラーが著しく設置されているし、設置されようとしている。ほかは分からないが、条例として三郷地区が緩いのか。今の時点でどのぐらいのソーラーの設置がされているか。

■市長 太陽光発電施設は、恵那市中あちこちで課題になっている。何年か前からこの話をいただいている。昨年9月、太陽光発電の設置に関する条例を設けた。砂防区域や保安林など一定の土地の規制のあるところは、太陽光発電施設は恵那市としては許可できないという条例で、岐阜県内でもかなり厳しいと思う。条例を設けているところがそもそもないので。岐阜県内でも先進的な取り組みだと思う。とはいえ、法律上何の規制もないところもあるので、そういうところでは太陽光発電を造られる可能性はある。決して緩いわけではない。個別の案件で心配なことがあれば建設部に問い合わせしてほしい。もしくは振興事務所でもいい。相談してほしい。

それから、三郷町内で何件かは数字を今持っていないので、必要なら振興事務所に伝えるので問い合わせしてほしい。

■市民3 初めてなので様子がよく分からないので、前もって質問事項を出している。迅速に対応していただきありがとうございます。保育の無償化が10月から始まる。それに関して質問して、文書で回答をいただいた。説明会の件。まだ日程が決まってないということだが、中津川市でもすでに2回やると聞いたので、恵那市でも決まったら保護者に詳しく丁寧に説明していただきたい。

■市長 事前にいただいたのでなるべく早く回答した方がいいと、担当で作って連絡した。消費税がこの秋10%に上がるので、それに伴い幼児教育の無償化を国の方針として出している。これが国会と我々たち市長会、地方との間ですったもんだして、なかなか収束しなかったが、この春までに大体の方向が決まった。それに基づき今は市でも10月に向けて準備を進めている。

こども園へ行くためにはどんな手順でやるかとか、副食代の料金はどうなるかという心配をいただいた。これは大体東濃5市で足並みをそろえていて、給食もしくは副食代も大体同一金額の方向で調整されている。無償化に伴うそれぞれの事務も市で行うということになっている。

10月からの無償化に関してもう少し地元や保護者に説明をすべきという提案もいただい

た。4月の時点で保護者にはチラシの中で通知はしているが、改めて10月を前にして、夏休みもあるので、その辺を見ながら御案内すると担当は言っていた。いただいた御意見を参考に、十分な説明をする。

市長お礼のあいさつ

■まちづくり企画部長 三郷は非常にバランスよくいろいろな課題について取り組まれていると改めて感じた。懇談会のレジュメの一番裏を見ていただくと、体系図がある。この一番右に、事業を誰がやるのということまで書いてある。ここまで書いてあるところはほかでは僕の記憶の限りではない。そういう意味で、きっちり事業も進んでいることがうかがえる。また、後期5年計画もこれを見直していく中で、毎月13地区の自治区会長会議を行っており、その中でも改めて感心したので、ほかの地域にも三郷の取り組みを紹介して、ほかのところでも実践していただきたいと感じた。今後も会長を中心に三郷のまちづくりに励んでいただきたい。本日はありがとうございました。

■副市長 事務局長の言われた、送迎の話。どこの地域へ行っても、最近は運転免許証の返納、高齢者の事故のことが出る。あるいは、地域で車もないのに住めるかということと言われる。そこを公共がどうやって担うか、手伝うのかということが、今後の日本全体の大きな課題だと思っている。串原と飯地町では公共交通空白地帯ということで、自分たちが有償運送をやっている。担い手のあるところはいいが、全く担い手のない地域もある。しかしながら、そういう課題をどう克服していくか。たとえば、最近では、トヨタ自動車とソフトバンクが一緒になってモネ・テクノロジーズという会社を作って、そういった課題を解決しようという動きが、明智町の向こうの豊田市の旧小原村で実証実験をしている。こういったものを参考にしながら、私たちも検討していくことが必要だと思っている。恵那市にとっての一番大事なこと、人が地域で住むためにはその足をどうするかというのが大きな課題だと思っている。一緒になって検討していきたい。

■市長 有意義な御意見を伺うことができた。ありがとうございました。本日発言できず、もう少し言いたかったということがあれば、担当にでも振興事務所にでも市議にでも伝えていただければ、必ず私どもで承り、担当を含めて検討する。今日の懇談会はその区切りではあるが、引き続き三郷町、恵那市の未来について一緒に考えていきたい。

閉会

■副会長・度會博行 今日はありがとうございました。意見を考慮していただき三郷町の発展のために尽力いただきたい。

[閉 会]